

平成27年度現地検討会実施状況（森林ふれあい・技術の普及）

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者		目的	内容	写真
技術普及	天然更新の活用現地検討会	7月24日	森林総合研究所北海道支所 上川北部流域森林・林業活性化協議会 北海道森林管理局森林技術・支援センター	士別市（国有林）	国有林	42 名	北海道においては今後主伐を迎える林分の増加に伴い、更新面積も増えることが予想され、低コスト化での更新、造林コストの低減を図ることが肝要なため、低コストにつながる技術の普及と情報の提供を目的として現地検討会を実施	上川北部流域森林・林業活性化協議会と森林技術・支援センターが共催で天然更新技術の活用方法に関する現地検討会を実施した。 北海道、市町村、森林組合、林業事業者などの民有林関係者 50名と国有林職員から約40名の約90名の参加で当センターと総研北海道支所が共同で取り組んできた「天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発」試験地の視察と現地での意見交換及び道有林での「かき起こし」（地がき）に関する情報提供を行った。 意見交換では「地がきでの天然更新で、小面積で地がきを行うと照度が抑えられ更新樹種の多様化が図られ有効であることがわかった。」、「天然更新の活用により低コストでの更新が期待出来る。」などの感想があり天然更新の活用での低コスト化に向けた意識の高まりが感じられた。	
					民有林	32 名			
					事業体	4 名			
					研究機関	14 名			
					その他	名			
					合計	92 名			
試験地での講師による説明									
木育	国有林・道有林意見交換会	8月28日	オホーツク総合振興局東部森林室 常呂川森林ふれあい推進センター	北見市（国有林） 網走市（国有林）	国有林	3 名	「北海道・北海道森林管理局の覚書」に基づいた活動を推進するため、森林環境教育（木育）担当者の意見交換を実施	常呂川ふれあいセンターにおける活動のメインフィールドであるオホーツクの森の状況、森林環境教育等の取り組みを報告し、森林環境教育（木育）についての共通認識・課題について意見交換を行った。 遊歩道等の維持等のハード面での問題点、学校教育等との連動などの共通課題について確認するとともに次回は、道有林のフィールドで行うことを確認した。	
					民有林	3 名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	6 名			
「オホーツクの森」の概況説明									
地域活性化	最北森林・座談会	9月25日	宗谷森林管理署 宗谷総合振興局 中頓別町まちづくり協議会	中頓別町	国有林	5 名	森林林業の再生に酪農や観光などの他業種を加えて、地域全体の活性化を模索するため、座談会を実施	中頓別町における地域の活性化を推進するため、森林ジャーナリスト、中川町職員の基調講演により、地域活性化の動き等を学んだ。 意見交換で参加者は町の活性化につながるアイデアを出しあい、それを基に活発な議論を行い、地域の可能性を見出して町の活性化につなげていくこととした。 町内の様々な方の多様な考え方に触れる貴重な機会となった。	
					民有林	17 名			
					事業体	5 名			
					研究機関	2 名			
					その他	7 名			
					合計	36 名			
座談会の様子									
木育	フィールド見学・意見交換会	10月14日	常呂川森林ふれあい推進センター	北見市	国有林	16 名	常呂川森林ふれあい推進センターの活動、森林ふれあい業務に関する意見交換	「小学生を対象とした森林教室」をテーマに、北見市内の公園（野付牛公園）でネイチャーゲームを取り入れた「森林教室」を体験しながら、身近な公園等での森林教室の企画・ガイド手法などについて意見交換した。 参加者からは、「わかりやすかった。署でも森林教室等を取り組みたい。」などの感想が出された。	
					民有林	名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	16 名			
「年輪幅、広い方が南?」「本当?」									

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
自然再生	野幌自然環境モニタリング 検討会	10月27日	石狩地域森林ふれあい推進センター	江別市(国有林)	国有林	5 名	台風被害を受けた野幌森林公園において、市民と協働の森林づくり等に取り組む「野幌プロジェクト」を推進するため、被害後の森林の再生状況等を把握するためのモニタリング調査に係る検討	台風被害箇所の再生状況を把握する観点から、森林環境の変化に影響されやすい「森林植生」、「歩行性甲虫」、「菌類」、「野生動物」の各調査を実施するため、モニタリングの対象項目、調査箇所、調査方法等について検討するとともに、これまでの調査結果を活用して、森林の再生段階、その他本林の有する生態系の健全性、懸案事項等についてとりまとめを行うこととなった。	
					民有林	名			
					事業体	名			
					研究機関	5 名			
					その他	2 名			
					合計	12 名			
自然再生	オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会	11月5日	オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会 (常呂川森林ふれあい推進センター)	北見市（国有林） 網走市（国有林）	国有林	5 名	オホーツクの森自然再生モデル事業の推進のため、現状及び進め方について確認し意見交換を実施	オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会として、自然再生モデル林の現状を理解してもらうとともに、目的とする針広混交林のイメージ作りのための意見交換を行った。 「針広混交林は狭いエリアでとらえるのではなく、森林全体として考えていく必要がある」などの意見が出された。	
					民有林	2 名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	4 名			
					合計	11 名			
木育	平成２７年度ふれあいセンター等事業検討会	11月10日 ～11日	釧路湿原森林ふれあい推進センター	標茶町（国有林）	国有林	15 名	道内各センターが事業の実施状況と課題を把握し、各課題の解決方法を模索するため。情報の共有と現地検討を実施	道内の森林ふれあい推進センター及び知床森林生態系保全センターの職員が出席。 各センターが取り組んでいる自然再生や森林環境教育の実施状況と実施上の課題について報告した。 小中学校での総合的な学習の時間が削減された中、「森林環境教育の推進が難しくなっている」との課題については、「積極的な学校への売込みが大切」、「総合的な学習の時間ではなく、理科や社会科の実習に焦点を当ててはどうか」など解決策について議論を行った。 現地検討会では、広葉樹人工植栽地において適切な再生手法のあり方について討論した。 「天然性実生が多いので植栽本数を減らしては」、「防鹿柵の設置コストと効果について知りたい」、「ノウサギによる食害対策はどのような方法を考えているのか」など活発な意見交換が行われ、各センターではこれらを踏まえて事業実施を行うこととした。	
					民有林	名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	15 名			

現地検討の様子

森林を見ながら意見交換

ノウサギによる食害状況を観察